

2025 年度 活動報告

特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター

1 事業実施の方針

次に掲げるビジョン、ミッション、バリューに基づき、事業を行った。

<ビジョン>

よりよい未来を、こどももおとなも、ともに学び・ともに創る社会をめざします。

<ミッション>

ビジョン実現のために、「国際理解教育」の実践として、次のことに取り組み続けます。

- ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。
- ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。
- ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。
- ④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。
- ⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

<バリュー>

【尊厳と信頼】ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。

【願いと選択】何を目指すか、どう行動するかを問い続けること。

【教育と実践】ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。

※カギ括弧の「国際理解教育」は、一教育分野としての国際理解教育を指すものではなく、ここに掲げたビジョン、ミッション、バリューを实践、推進する活動全体を指すものである。当団体の名称も同義である。

2 2025 年度業務の全体像

(1) ワークショップの提供状況や内容の外観

◇参加の文化を拡げる指標の結果は下表のとおりである。2026 年度は、過去の年度と比べ、新規の依頼数が減り、そのため業務数過去 2 年と比較し少なくなっている。

指標名	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
業務数	27	27	35	33	27
WS提供日数	99	92	124	103	98
WS提供時間	396.5	331.0	422.0	353.0	344.5
WS参加者数	849	790	1,147	1,623	1163
延べ参加者数	2,207	1,839	2,397	2,582	2096
新規業務数	8	9	11	11	5
新規業務率	30%	33%	31%	33%	19%
継続実施数	19	18	24	22	22
指導者研修率	63%	64%	62%	56%	63%

※ 業務数の中には 6 つの自主プロジェクトを含む。但し、WS 関連指標は自主プロジェクト（内部活動）を除外した。

(2) 扱ったテーマ 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 27）

◇国際理解系（SDGs、国際交流、多文化共生を含む）が 14 件と最も多く、次いで、人権系が 9 件、参加・まちづくり系が 3 件となっている。

テーマ	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
国際理解系	17 件	17 件	17 件	14 件	14 件
人権系	4 件	3 件	5 件	11 件	9 件
環境系	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
ファシリテーション・ 参加・まちづくり・ 組織開発系	3 件	4 件	9 件	5 件	3 件
全複合	1 件	1 件	2 件	1 件	1 件

(3) 実施した地域 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 22 業務）

◇愛知県が 14 件と最多で大半を占めている。

地域	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
愛知県	14 件	13 件	20 件	16 件	14 件
岐阜・三重県	0 件	2 件	3 件	2 件	3 件
香川・高知・徳島県	4 件	5 件	2 件	3 件	2 件
その他遠県等	3 件 長野、静岡、東京	1 件 静岡	5 件 静岡、石川、茨城、東京、福岡	6 件 静岡、福岡、石川、兵庫、茨城、東京	3 件 静岡、福岡、石川

(4) 主催者 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 22 業務）

◇NPO が 6 件と最も多かった。続いて 5 件が、自治体、JICA となっている。

主催者	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
教育団体系	9 件	7 件	7 件	8 件	4 件
NPO	3 件	2 件	7 件	6 件	6 件
自治体系	4 件	5 件	9 件	6 件	5 件
JICA	4 件	7 件	7 件	6 件	5 件
その他民間団体	1 件	0 件	0 件	1 件	2 件

(5) ワークショップの時間 対外的なワークショップを行っていない事業を除く

◇4.5～6 時間、12 時間越えが 7 件と最も多く、次いで 6.5～12 時間が 6 件となっている。

◇提供時間が長い上位 3 位の業務は次のとおりであった。

- ・オルタナティブ・スクールあいち惟の森テーマ・スキル学習 75 時間
- ・JICA 中部 教師海外研修 48.5 時間
- ・JICA 中部 開発教育指導者研修（実践編）45.5 時間

業務あたりの WS 時間	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
3 時間未満	6 件	7 件	7 件	5 件	3 件
3～4 時間	7 件	8 件	6 件	6 件	4 件
4.5～6 時間	2 件	3 件	4 件	6 件	7 件
6.5～12 時間	4 件	4 件	6 件	4 件	6 件
12 時間超	5 件	6 件	11 件	10 件	7 件

※：1 業務の中に種類の異なる研修・講座がある場合は分けて計上した。

(6) 依頼ファシリテーター数、時間（担当）

- ◇依頼ファシリテーター数（複数回講座でも1人で担う場合は1人として計上）は33人であった。
- ◇代表の請負率（代表率）は48%であった。
- ◇2025年度現在の研究員がファシリテーターを担った者は6人であった。

ファシリテーター		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
代表	伊沢	23	20	18	23	16
研究員	平野	2	1	1		
	久世	3	1	1	2	0
	谷口		1			1
	滝		1			
	川合	1	1	1	1	1
	堀川			4	1	1
	田口	3	1	2	1	3
	鉄井	6	2	5	9	8
	長野	2	2	2	2	2
	佐藤	1				
	大島	1	1	1	1	
	青野			1		1
合計		43	30	36	40	33
代表率		53%	67%	50%	58%	48%
研究員請負数		18	10	16	16	16
同上率		42%	33%	44%	40%	48%
研究員補等請負数		2	2	2	1	1
同上率		5%	7%	6%	3%	3%
備考 (複数F依頼)		JICA中部(3) JICA四国(4) 香川県国際交 流協会(5) 惟の森(6)	JICA中部(2) 中京大学(3) 惟の森(6)	JICA中部(2) 惟の森(7) ICAN(2)	JICA中部(2) 刈谷(2) 惟の森(5) 菊里(2)	JICA中部(2) 刈谷(3) 惟の森(4)

注：自主的な講座、打合せ会議、市民主体のイベント支援に関わるファシリテーターは除く。

3 各ミッションに対する 2025 年度の総括（成果と課題）

① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。 担当：川合

2025 年度の事業計画のミッション①に関する総括は次のとおりである。

取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション①の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション①の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション①に関する評価指標づくりと運用	◇NIED が提供する講座・研修が、ミッション①に寄与しているかどうかを受講者アンケートで推し量る評価指標は活用が進められなかった。 ◆その原因と活用する意味やベネフィットを改めて検討する必要がある。

② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。 担当：川合

◇NIED が考える「自分、他者、社会に関わるスキル」とは、次のようなものである。



取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション②の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション②の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション②に関する評価指標づくりと運用	◇NIED が提供する講座・研修が、ミッション②に寄与しているかどうかを受講者アンケートで推し量る評価指標は活用が進められなかった。 ◆その原因と活用する意味やベネフィットを改めて検討する必要がある。

③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。

(1) 学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 の 2025 年度実績

◇現場…7 件（昨年度 9 件） ◇テーマ…開発・国際理解、多文化共生、人権、複合 ◇参加者数…480 人（昨年度 507 人）、 ◇延べ 751 人（昨年度 1017 人） ◇提供時間…117.5 時間（昨年度 116.0 時間）

(2) 担い手を養成する研修 の 2025 年度実績

◇現場…15 件（昨年度 16 件） ◇テーマ…開発・国際理解、人権、多文化共生、ファシリテーション、組織開発など ◇参加者数…510 人（昨年度 604 人）、 ◇延べ 1,103 人（昨年度 1,139 人） ◇提供時間…182.5 時間（昨年度 184.5 時間）
--

(3) ミッション③に関する NIED の自主的取り組み

◇ミッション③に関する NIED の自主的取り組みについての実績・成果及び課題は次のとおり。

a. 参加型で世界は変わる～N I E D 国際理解教育講座テーマ編 2025 担当：久世

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 ①T 講座	◇NIEDが実践・推進する国際理解教育を広く普及し、持続可能な未来を築く人材の育成を図るため、国際理解教育の3つのテーマについて学ぶ場として、1回 6 時間の自主講座を3回実施した。 ◇より多くの参加者を得るために料金の再検討を行いながらも実施できなかった昨年度の方向性を踏襲し、参加費を下げた。	◆料金を下方修正した結果「声を掛けやすくなった」との意見はあるものの、参加者増にダイレクトに結びついたとは言い難かった。 広報に関して、電子版チラシを復活させるなど、より積極的な手立てを講じる必要性がある。
その担い手を養成する研修 ②T講座プロジェクト	◇ファシリテーター立候補者が1名のみであり、その問題を解決するために数か月予定がずれ込んだ。結果、3つのプロジェクト（以下 PJ）が担う形で2回の講座を行い、合計3回の講座数を何とか年内に確保できた。 ◇結果として従来通りのキックオフミーティング、プログラム検討寄合、本番という形で行った講座は1回のみであった。 ◇その1回のプログラム検討寄り合いでは、担当ファシリテーターが作成したプログラムを参加者全員で検討したり、実際に予定されているアクティビティを経験したりしながら、研鑽に励むことができた。 ◇NIED の内部組織である PJ での活動を、外部に紹介することができた。具体的には惟の森 PJ 小学校でのテーマ・スキル学習でのプログラムを紹介した。また、公共 PJ の HP 公開プログラムと NIED 本出版プロジェクトの人権本に於けるプログラムの未公開のものを紹介しつつ、公開前に実施の場として活用した。	◆ファシリテーター立候補者が減ってきている中で、資格、意欲があるメンバーに対し理事会として積極的にアプローチを掛ける。 ◆より積極的にT講座検討寄り合いをアピールし、多くの人数で検討できるようにしていく。 ◆NIED の人材育成のためにも、T 講座とそれに伴う寄り合いを継続していく。

b. 参加型で世界は変わる～N I E D国際理解教育講座ファシリテーター編 担当：伊沢

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 F講座	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇3月に3回シリーズで開催(第2、3回は連続する土日)。 ◇参加人数は、第1回:14名、第2回:12名、第3回:13名。 ◇全体を通して18人の方が参加し、3回合わせると39名の参加があった。 ◇18名中、会員以外が6名、3回全ての参加は8名だった。 <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇NIED会員の他、愛知県内外の教員、惟の森スタッフ(2名各1回)、子育て支援系、環境系など、多様な所属からの参加者が得られ、「人権ベースのファシリテーション」というテーマへの関心やファシリテーションそのものへのニーズの高さを感じた。 ◇所属学校の新たなカリキュラムを作成する参考に、と東京からの参加があった。当初1回だけお試しの申込みであったが、結果的に3回全てに参加された。 ◇NIED会員では、新たに4名がT講座Fエントリー資格を得た。 ◇全回記録はファシリテーター自身が作成したので、参加費収入は収益となり、費用対効果が高い。 <p>※会場である伏見ライフプラザはNIEDとして登録団体になっており、無料であることはありがたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆T講座Fエントリー資格を得ていただくためにF講座は必須であるが、F講座開催の最適時期を早めに決定アナウンスする必要がある。 ◆これまで代表が1人で担当してきたF講座だが、NIEDNEXTとしてのF講座の在り方についての検討必要。

c. オルタナティブ・スクールあいち惟の森 テーマ・スキル学習プロジェクト 担当：鉄井、田口

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇低学年8名、高学年11名、合計19名に対して、それぞれ年間15回(5テーマ各回/各回は3時限ずつ)のテーマ・スキル学習を提供した。 ◇低学年は、環境、自分と他者に関わる力、人権、共生・平和、みんなに関わる力の5テーマ、高学年は、世界とのつながり、まちづくり、人権、環境、社会参画の5テーマ。 ◇Fは、低学年は1人が継続的に関わり、高学年は複数のファシリテーターが担い、多様なテーマに対応した。 <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇低学年は、伊沢が作成したプログラム案をベースに、各ファシリテーターが一部アレンジして提供する形を今年も踏襲。担当Fの準備の負担減にもつながっている。 ◇高学年は、過去のテーマ・スキルや今までNIEDが提供してきたアクティビティをベースに田口がプログラム案を作成して、各ファシリテーターが最終化したり、独自のプログラムを実施した。 ◇テーマのつながりを意識し、惟の森の他カリキュラムとの「智恵の三つ編み」を意識した学校との連携が少しずつカタチになってきている。 ◇1テーマ3回を1人のファシリテーターが担当することで、子どもたちとの関係性構築に役立ち、また、プログラムの流れやテーマ同士のつながりに統一感ができた。 ◇学年やクラスの現状をクラス担任と情報共有し、必要なスキルや必要なテーマを随時挿入することで、現場の現状に即したテーマ・スキルとなってきている。 ◇「考える」「伝える」「聞く」「協力する」などのスキルが育成され、「民主的なスキル」「市民性」が生まれ出していると感じる場面や個人が感じられるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日常の人間関係やトラブルがテーマ・スキルの参加の態度に影響を及ぼすことがある。アサーションや対立解決スキルトレーニングにフォーカスする必要がある。 ◆いずれは担任スタッフにテーマ・スキルファシリテーターを引き継いでもらうための計画が必要。

d. IVY (アイビー) 制度 担当：川合

…NIEDメンバーが他のNIEDファシリテーターが実施する研修・講座等に同行し、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作るもの(交通費自己負担、報告書要提出)。

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 IVY 制度	◇NIED 徒然で、IVY できる可能性のある研修・講座の周知を行い、2025 年度の利用は、1 件 5 人 (JICA 中部/夏目・堀川・松田真・柴田・佐藤) であった。	◆利用対象研修が、JICA 中部開発教育指導者研修(実践編)に限られている。 ◆個別研修への制度利用は限られるため、総合的なファシリテーター育成の観点から見直しが必要といえる。

e. N I E Dファシリテーター制度 (研究員、研究員候補、T 講座 F 経験者) 担当：川合

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 F 制度	◇受託・派遣を担った代表以外のファシリテーターは次のとおりであった。 ① 研究員候補…1 人(青野) ② 研究員…6 人 (鉄井、長野、堀川、田口、谷口、川合) ◇代表以外がファシを担う割合が約 52%(日数ベース)となり、初めて 50%を超えた。 ◇ファシリテーター制度でステップアップしたファシは以下のとおりであった。 ① T 講座 F 経験者… 0 人(昨年度 0 人) ② 研究員候補…0 人(昨年度 0 人)	◆副代表鉄井、副代表田口の NIED 有給スタッフ化に伴い、両者にファシリテーターを担ってもらふ必然性が増したこともあり、ステップアップ者が 0 人となった。短期的には仕方ないが、中長期的には受託事業のファシリテーターができるスタッフを増やす必要がある。 ◆ターゲットを明確にし、ステップアップ者を増やせる手立てを検討する必要がある。

④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。

(1) NIEDが直接コミュニティづくりをする事業の 2025 年度実績

◇地域・テーマの場…4 件 刈谷市×2、愛知県、名古屋 NGO センター (昨年度 6 件)
◇参加者数…145 人 (昨年度 486 人)、 ◇延べ 214 人 (昨年度 546 人)
◇提供時間…42 時間 (昨年度 49.5 時間)

(2) その担い手を育成する研修の 2025 年度実績

◇地域・テーマの場…1 件：ファミリーステーション Rin (昨年度 1 件)
◇テーマ…人権(ジェンダー)
◇参加者数…28 人 (昨年度 26 人)、 ◇延べ 28 人 (昨年度 26 人)
◇提供時間…2.5 時間 (昨年度 3 時間)

⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

(1) ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みの成果と課題

◇ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みに関する成果と課題は次のとおり。

e. N I E D 本出版プロジェクト = ミッション②③に関する研究・発信 担当：田口

実績・成果	課題
<p>◇コミュニケーション編:「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『コミュニケーション編』-他者に関わる力を育もう-」(初版 515 冊/2018 年 3 月出版、第 2 版 500 冊増版/2022 年 3 月)について、①継続して普及に取り組み 38 冊を販売することができた。②開発教育協会に委託頒布をした。</p> <p>◇人権編:2 冊目の本「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『人権編』-身近なところから考える-」が完成し、初版 507 冊出版することができた。</p> <p>◇プロジェクトメンバーが 10 人で月に 2 回程度ミーティングを開催した。</p>	<p>◆コミュニケーション編の残部数が少なくなっている。</p> <p>◆コミュニケーション編、人権編をいかに販売するか。</p>

f. 公共プロジェクト = ミッション①②③に関する研究・発信 担当：谷口・吉岡

実績・成果	課題
<p>◇2022 年 4 月から高等学校の公民科の新教科となった「公共」の授業で使える参加型の授業プログラムの作成を進めている。2025 年度は、Zoom での公共寄り合いを 7 回開催した。</p> <p>◇2024 年度より学校や NIED で実践をしてプログラムの見なおしができたものを NIED のホームページで「無料ダウンロード可能な教材」として掲載することになっている。昨年度掲載した 4 つのプログラムに加え、今年度は「公正」「社会参加」の 2 つのプログラムを掲載した。</p> <p>◇NIED ホームページに掲載した原稿については、感想や実践報告を求めている。2026 年 3 月に今までダウンロードしてくれた方にこちらからアンケートを送付した。</p> <p>◇Book プロジェクトと合同で T 講座での 1 講座を担った。</p> <p>◇現在は、T 講座で使った「多文化共生」のプログラムの教材化を進めている。</p> <p>◇プログラムのダウンロード件数 11 件(合計 21 件)。</p>	<p>◆メンバーが少ないことと忙しいことが原因で、寄り合いをなかなか開催できない。(原則 3 名以上の参加が見込まれる際に開催)</p> <p>◆メンバーの増員。</p> <p>◆実践の機会をもっと作る。</p> <p>◆ホームページを通した利用者を増やし、フィードバックを増やす。</p> <p>◆ホームページ掲載以外の発表の方法を考える。</p>

g. 書籍活々(いきいき)プロジェクト = 全ミッションに関わる調査・研究 担当：伴

実績・成果	課題
<p>◇NIED 書籍の貸出・返却実績は、1 名から 2 回(3 冊)だった。</p> <p>◇お出かけ企画を実施した。 9/7 五味太郎 メリーゴーランド(2 名参加)</p> <p>◇寄り合いプロジェクトとコラボして、わたしたちの地球と未来「ニカラグア共和国」を使ってアクティビティ体験ワークショップを行った。</p>	<p>◆NIED メンバーとの学び合いの場として、書籍を活用したワークショップの機会を増やす。</p>

h. N I E D 情報共有システム = 全ミッションに関わる調査・研究 担当：川合

区分	実績・成果	課題
実績成果の共有	<p>◇実績成果に関わる情報ボックス「NIED-ShareBox-2」フォルダを継続運用した。</p> <p>◇受託業務への派遣される NIED ファシリテーターのニーズに応じて、過去のプログラムや教材を提供した。</p>	<p>◆「NIED-ShareBox-2」の利用のあり方を検討する必要がある。</p>

一般情報 共有・交換	<p>◇会員メーリングリストの年間投稿数は 196 件[前年度 247 件]であった。</p> <p>◇新たに、NIED 会員向けの LINE グループを開設し、34 人が参加した。</p> <p>◇NIED 徒然の発行は、予定回数の 12 回行うことができた。</p> <p>◇「NIED-ShareBox-1」は、一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムの周知を図った。</p>	<p>◆引き続き、定期的に NIED 徒然を発行し、内容の充実を図る。</p>
---------------	---	---

I. ホームページ・広報プロジェクト =全ミッションに関わる発信 担当：田口

実績・成果	課題
<p>◇電子媒体による広報活動として、NIED の活動実績等をウェブサイト「お知らせ」に 13 件[前年度合計 11 件]投稿した。</p> <p>◇NIED フェイスブックページは 1,239 人がフォローし、前年同期より 140 人増加した。投稿数は、18 件[前年度 13 件]であった。</p>	<p>◆より幅広く NIED の活動を伝えるために、積極的に活動内容を投稿していくことが望まれる。</p>

j. 寄り合いプロジェクト =全ミッションに関わる発信 担当：鉄井

実績・成果	課題
<p>◇定期的な寄り合い開催をコーディネートし、会員の寄り合い参加、寄り合い活用を促進した。</p> <p>◇他プロジェクトとも協働しながら進めることができた。</p> <p>◇6 回、のべ 36 人の参加。</p> <p>4 月 14 日 アクティビティ体験(BOOK プロジェクト) 5 人</p> <p>6 月 14 日 アクティビティ体験(BOOK プロジェクト) 6 人</p> <p>9 月 14 日 NIED 近況報告 & チラシ発送作業 5 人</p> <p>11 月 9 日 アクティビティ体験(書籍活々プロジェクト) 11 人</p> <p>11 月 30 日 T 講座寄り合い(対立) 6 人</p> <p>1 月 18 日 NIED 近況報告 & 企画検討 オンライン/3 人</p> <p>◇20 周年企画で集まったアイデアを理事会、プロジェクトで確認し、会員の想いを実現していくための新たな企画の構想を検討した。</p>	<p>◆参加するメンバーが固定されており、より多くの会員の参加が望まれる。</p> <p>◆業務上、日程確保が難しくなる時期の開催ができない。担当理事不在でも実施できるプロジェクトの在り方の検討が必要。</p>

⑥ その他 活動の基盤となる活動を行います。

m. 会員コミュニケーション =全ミッションに関わる会員交流 担当：薄井

実績・成果	課題
<p>◇会員間のコミュニケーションの一環で、新規会員の入会 + その方々の自己紹介をしていただいた。</p> <p>◇「h. NIED 情報共有システム」で開設された、LINE グループにおいて、NIED のお仕事関連のお知らせや会員間の個人的なお知らせや相談などの会話の場として活用されている。</p>	<p>◇会員間のコミュニケーション醸成の場としての「寄り合い」に関しては、寄り合いプロジェクトにて開催されている。昨年の総会で提案があった LINE グループを活用したコミュニケーションツールが開設されたため、オンラインでのコミュニケーションも充実してきた。よって、会員コミュニケーションプロジェクトは、2025 年度をもって発展的解消としたい。</p>

4 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

● A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業

（1）事業内容

自治体、学校、民間団体などからの依頼により、国際理解、人権、環境などをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

（2）開催概要

2025年度は、合計16事業（前年度：21事業）で、研修等の提供時間は81.5時間（前年度：100.5時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は収支計算書類を参照のこと。

（3）延べ参加者数 672人（前年度：1,350人）

（4）収入額 1,505,937円（前年度：2,325,556円）謝金、委託費、交通費等

（5）支出額 867,357円（前年度：1,383,391円）人件費643,797円、謝金67,880円、旅費交通費155,680円

● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

（1）事業内容

主に、人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱うファシリテーター養成講座を自主事業として行った。

（2）開催概要

2025年度は、合計2事業（前年度：1事業）で、研修等の提供時間は36時間（前年度：18時間）であった。

（3）延べ参加者数 59人（前年度：32人）

（4）収入額 249,500円（前年度：173,000円）参加費

（5）支出額 203,205円（前年度：120,696円）人件費128,889円、謝金63,040円、旅費交通費8,685円、消耗品2,591円

● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

（1）事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、ファシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

（2）開催概要

2025年度は、合計4事業（前年度：5事業）、研修等の提供時間は143.5時間（前年度：232.5時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

（3）延べ参加者数 733人（前年度：802人）

（4）収入額 18,681,264円（前年度：17,707,308円）委託費

（5）支出額 16,712,252円（前年度：15,669,430円）人件費8,034,600円、謝金・外注費6,680,429円、旅費交通費1,015,022円、通信運搬費499,797円、印刷製本費98,630円、消耗品142,192円、その他雑費241,582円

● D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業

（1）事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「PRする」ことを、研究会方式などにより行った。

（2）開催概要

2025年度は、5つの事業（前年度：5事業）、研修等の提供時間は0時間（前年度：0時間）であった。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

（3）延べ参加者数 0人（前年度：0人）

（4）収入額 79,500円（前年度：392,300円）書籍頒布代

（5）支出額 760,285円（前年度：1,370,631円）人件費33,623円、謝金84,000円、旅費交通費15,520円、通信運搬費2,880円、印刷製本費623,700円、雑費562円

5 会議の開催に関する事項

(1) 総会 2025 年度定期総会

日 時 2025 年 6 月 8 日 (土) 13:30~15:30

場 所 名古屋 NGO センター共用スペース&オンライン

出席者数 正会員総数 43 人中、出席 20 人 (うちオンライン 4 人)、委任 18 人、合計 38 人

議 題

(1) 2024 年度事業報告 (案) 及び決算 (案) の承認に関する件-----承認

(2) 2025 年度事業計画 (案) 及び予算 (案) の承認に関する件-----承認

(2) 理事会 2025 年度は、下表のとおり 5 回開催した。

回	日時	議題	場所	出席
1	4 月 12 日 (土) 13:30~16:30	(1) 2024 年度事業報告案について (2) 2025 年度事業計画案について	YWCA302 オンライン	8 人
2	5 月 17 日 (土) 17:00~19:00	(1) 2024 年度事業報告/決算案について (2) 2025 年度事業計画/予算案について (3) 総会の進め方について (4) 自主プロジェクトの在り方について (5) 各プロジェクトの進捗状況の確認について (6) 正会員の現状について	オンライン	10 人
3	7 月 12 日 (土) 13:30~16:00	(1) 各プロジェクトの進捗状況の確認について (2) 「参議院選挙にあたり排外主義の煽動に反対する NGO 緊急共同声明」への賛同について (3) テーマ講座の開催について	YWCA301 号 オンライン	10 人
4	9 月 21 日 (日) 13:30~17:00	(1) 各プロジェクト・事業の進捗状況について (2) NIED 会員の情報共有について (LINE グループ) (3) テーマ講座の開催について	NIED 事務所 オンライン	9 人
5	2 月 15 日 (日) 13:30~17:00	(1) 各プロジェクトの進捗状況について (2) 公共プロジェクトのアンケートについて (3) 20 周年記念プロジェクトふりかえり (4) テーマ講座の開催について (5) 次年度の事業について	NIED 事務所 オンライン	8 人